

斑点米カメムシ類 急増中！ 地域全体で防除前の除草を徹底しましょう！



アカスジカスミカメ

アカスジカスミカメ、
アカヒゲホソミドリカスミカメともに

発生多い！



アカヒゲホソミドリカスミカメ

被害を防ぐには、防除前に「**広域で！一斉に！草刈り徹底！**」

- ・畦畔や農道の斑点米カメムシの密度が非常に高い状況です。防除前に草刈りを徹底し密度低減を図りましょう！
- ・**2回の基本防除（穂揃期と穂揃期7～10日後）を徹底する**
- ・例年、斑点米カメムシ類の被害が多い場合には、補完防除（2回目の7～10日後）の実施を検討しましょう！
- ・畦畔・農道等、水田周辺の草刈りを、やむを得ず行う場合は、防除直前に実施しましょう

葉いもちが確認されています！ 早期発見・早期防除に努めましょう！

- ・葉いもちの発生がみられます。
葉いもちは穂いもちの発生に直結します。ほ場をよく観察し、早期発見・早期防除に努めましょう！

発生を確認した場合 → **直ちに治療効果のある薬剤で防除！**
※特別栽培の場合、農薬の使用計画に沿った薬剤で防除を行いましょう。



穂いもち

◎熱中症や農作業事故に注意

暑い日が続く予報となっています。農作業は、休憩をとりながら、水分や塩分の補給を十分に行いましょう。

中干し後は間断かん水で根の活力維持！

○中干し後は根の活力維持！

- ・中干し終了後は走り水→飽水管理→間断かん水（2日湛水・2日落水）と徐々に間断かんがいに移行し、急激な酸化・還元の変化による根腐れを防止します。

○低温時は下記の対応を取り、被害を最小限に留めましょう！

「前歴深水管理」出穂25日前頃から10cm程度の深水にしましょう。

「穂孕み期の低温時水管理」…出穂前14～7日は最も低温により障害不稔を生じやすいため、最低気温17℃以下の低温が予想される場合には深水管理を行い、幼穂を保護しましょう。

※深水管理にはあらかじめ畦畔のかさ上げや漏水防止、用水の確保が必要となります。

○7月8日現在の生育状況

- ・7月8日現在の生育は、草丈は平年並み～長く、莖数は「はえぬき」「雪若丸」で少ない～やや少なく、「つや姫」で多く、葉数はやや多い～多く、葉色は平年並み～濃い状況です。
- ・農業総合研究センターの幼穂の顕鏡調査では、出穂期は「はえぬき」「雪若丸」で平年より2日程度、「つや姫」で3日程度早い予想です。

「はえぬき」の生育

項目	川西町(移植5/22)	
	調査値	平年比(差)
草丈(cm)	57.5	102
莖数(本/m ²)	631	95
葉数(L)	10.5	+0.5
葉色(SPAD)	43.6	-0.7

「つや姫」の生育

項目	川西町(移植5/20)	
	調査値	平年比(差)
草丈(cm)	64.1	120
莖数(本/m ²)	607	111
葉数(L)	10.4	+0.3
葉色(SPAD)	44.1	+1.2

「雪若丸」の生育

項目	高畠町(移植5/21)	
	調査値	指標比(差)
草丈(cm)	56.2	113
莖数(本/m ²)	574	93
葉数(L)	11.0	+0.8
葉色(SPAD)	46.7	+5.3

1か月予報(7月7日発表)

【気温】

7/9～15:低い10% 平年並10% 高い80%

7/16～7/22:低い20% 平年並50% 高い30%

7/23～8/5:低い20% 平年並40% 高い40%

【降水量】 少ない20% 平年並40% 多い40%

【日照時間】 少ない40% 平年並30% 多い30%

◎山形県農薬危害防止運動実施中(実施期間6月1日～8月31日)

農薬使用基準(収穫全使用日数、使用回数など)を遵守し、また、周辺ほ場の農作物や住宅地等への飛散にも十分留意しましょう